

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900284
法人名	医療法人 内田会
事業所名	グループホーム「虹」
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446番地2 (電話) 0883-76-4655

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12 日

【情報提供票より】(平成 20 年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤職員:9人、非常勤職員:5人、常勤換算:すだち 4.95人、あい 5.73人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	日常生活費、電気器具使用料:12,000円 その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周囲にはJR土讃線の駅や病院、郵便局、神社、雑貨食品店などがあり、生活に便利である。交通量は少なく安全で日々の散歩にも出かけやすい環境である。事業所は玄関が路地に面した引き戸であり、地域の方がいつでも気楽に訪問できる雰囲気となっているなど地域に受け込んだたたずまいである。事業所へは小学生やボランティアの来訪、季節の野菜や花の差し入れがあるなど地域からの支援も行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題は全職員に周知している。「市町村との連携」、「災害対策」は改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員を育てる取り組み」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「現状に即した介護計画の見直し」については改善するまでには至っていない。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>全職員に周知し意見を聞くなどして取り組んでいる。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は過去に1回開催し、利用者や家族代表、地区の自治会長、理事長、管理者、職員で構成されている。会議内容は事業所の取り組み状況や外部評価結果などを報告し、自主防災組織への加入などについて相談している。また家族からの個別的要求に対して、事業所としてどこまでの支援ができるかなどについて意見交換がなされている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族会を定期的に関いたり、行事への参加や日常的にホームへの立ち寄りと呼び掛けるなど、家族との会話を通して意見などを聞くように努めている。体力維持の要求に対してリハビリを取り入れたり、体調や病気に対する不安は定期的な医師の来訪などで安心を得られるよう支援している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>利用者の知り合いが来訪したり、ホームの行事に地域のボランティアが参加している。また花や野菜の差し入れなどもある。事業所からは地域の祭りや行事などに参加している。神社へのお参りや散歩、買い物、美容室の利用など交流を楽しんでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で関わりながら、その人らしく安心して生活してもらうことを謳った事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を理解してミーティングで話し合ったり、日常の支援の中で確認し合ったりしながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の知り合いが来訪したり、ホームの行事に地域のボランティアが参加している。また草花や野菜の差し入れなどもある。事業所からは地域の祭りや行事などに参加している。神社へのお参りや散歩、買い物、美容室の利用など交流を楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解してサービスの見直しとさらなる質の向上に取り組んでいる。前回評価の結果は全職員に周知して改善について話し合い、自己評価についても意見を出し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族代表、地区の自治会長、理事長、管理者、職員で構成されている。会議内容は事業所の取り組み状況や外部評価結果などを報告し、自主防災組織への加入などについて相談している。また家族からの個別的要求に対して、事業所としてどこまでの支援ができるかなどについて意見交換がなされている。しかし会議開催は1回であり、地域包括支援センター職員または行政の職員が参加していない。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。構成メンバーについては地域包括支援センター職員または行政職員の参加が得られるよう取り組まされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が実施する研修会などに参加したり、担当課へ積極的に出向くなどして情報を得たり相談を行ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはできるだけホームに来院してもらい、利用者の状況を口頭で伝えるようにしている。来られない方には電話したりホーム便りや生活状況などを郵送で報告するなど、一人ひとりに合わせて対応している。金銭出納も定期的に報告し家族からサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族間だけで話せる場面づくり、外部の相談窓口の明記などを行っている。また家族との会話の中での何気ない利用者への心配などを「何でもノート」に記入し、ミーティングで話し合いケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係を築きやすい職員を優先して配置し、法人内での異動は行っていない。職員が変わった場合は利用者や家族が不安にならないよう説明や紹介を行うなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得に重点を置きながら外部の研修にもできるだけ参加できるように配慮し、質の確保と向上に向けて支援している。しかし全職員が研修内容を共有できる報告などの仕組みがない。	○	研修参加後は報告書を作成して回覧し、サインをするなど全職員が情報を共有できるような仕組みづくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホームへ交流訪問をしたり、会議などで同業者との意見交換を積極的に行っている。職員も研修会などを通して情報を得たり意見交換などを行っている。またグループホーム協会に加入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族に事業所を見学してもらい、本人の状況を聞いたり相談に乗ったりしながら利用開始に繋げている。場合によっては入居後も一時帰宅の支援を行うなど、利用者の気持ちに合わせてゆっくりと馴染んでらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の経験や得意なことなどを活かして生活できるよう支援し、お互いに感謝の気持ちを伝えあいながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あいさつや言葉かけ、スキンシップなどいつもそばで寄り添いながら日々の気持ちや体調の変化などを把握している。利用者一人ひとりの日々の過ごし方に対する希望を知り、理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や要望などをよく聞き、本人の暮らしを考えた介護計画が作成されている。しかし、利用者や家族に対して計画内容を説明しているが、同意の確認印・サインがない。	○	介護計画は同意の確認印・サインなどをもらわれたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直している。また利用者の状態が変化した場合や、家族や必要な関係者の意見などを参考にして現状に即した見直しを行っている。しかし同意の確認印・サインがない。	○	介護計画は見直しの都度、利用者や家族へ説明して同意の確認印・サインをもらわれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所に看護師を配置して体調管理は専門的な視点で早期の気づきや支援ができています。希望する病院への送迎も柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう家族と協力して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のあり方については、体調変化時などの早い段階で利用者や家族、かかりつけ医と話し合っている。本人や家族の意向を第一に支援することに努め、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護や個人情報などの秘密保持については契約書に明記している。ミーティング時などには全職員に秘密保持の徹底を行い、意識の向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしてゆっくりと話しかけるなどの関わりを心がけている。職員は利用者一人ひとりの性格や特徴を知り、何をしたいか、今日はどのように過ごしたいのかなどの希望にそって支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの役割が自然にできており、準備から片付けまで元気で明るく、楽しい雰囲気である。献立は利用者の希望を聞いたり、その日の材料でメニューを決めるなど利用者本位の支援を行っている。小学生が来訪した時には一緒におやつを作って楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望した時や状況に応じて柔軟に入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、部屋の掃除などを楽しみながら行っている。新聞を読んだり、歌を歌ったり、買い物や公園に出かけるなど一人ひとりの希望にそった楽しみのある生活が支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周囲にある車の通りが少ない裏道を利用して神社や駅前広場、美容室などへ出かけている。利用者のその日の希望や状態を見合せながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に鍵をかけて生じた弊害を経験したことにより施錠しないケアの意義を理解し、日中は鍵をかけないケアを実践している。地域の中にとけ込んだ雰囲気の中で、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難や緊急連絡の訓練などを繰り返し実施している。地域の消防団や地区の自主防災組織の協力を得ている。また住民やボランティアの協力を得られるよう働きかけている。飲水の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士の助言を受けて専門的な視点からチェックしてもらっている。利用者の状態や栄養バランスを考慮して食べやすいものを提供し、摂取量の確保に努めている。水分摂取が少ない人にはペットボトルを居室に置くなどしている。一人ひとりの栄養、水分摂取量の記録も整備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外はプランターに花を植えて各所に飾り、自然ななごみを感じられる空間となっている。屋内の壁面には行事の写真や思い出のものを飾っている。テレビの前には机とソファがあり、利用者は腰を掛けておしゃべりを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には専用のテレビがあったり、連れ合いの遺影の前に一輪の花が生けてあったりしている。またお琴を持ち込んでいる方がいるなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫されている。		